

# 活動レポート

## 倫理委員会

文責：倫理研究会幹事 佐々木裕之

### 平成 25 年度第 3 回、第 4 回、第 5 回研究 WG 活動報告等

#### はじめに

倫理委員会では、平成 25 年 8 月 19 日(月)に平成 25 年度第 3 回研究 WG (出席者 19 名)を R & B パーク札幌大通サテライト Hint 会議室にて、平成 25 年 10 月 7 日(月)に第 4 回研究 WG (出席者 18 名)をドーコン新札幌ビル会議室にて、平成 25 年 12 月 12 日(木)に第 5 回研究 WG (出席者 16 名)を北開工営会議室において開催しましたので、これらについて報告いたします。

#### 1. 第 3 回研究 WG

##### (1)新体制及び役員会報告

佐崎新委員長より、今期の新体制(佐崎委員長、日下部幹事長)について報告がありました。

##### (2)ミニ講演会(大谷委員、長谷川委員)

大谷委員、長谷川委員より『企業内技術者の葛藤』と題したミニ講演会が実施され、講演の後フリーディスカッションを行い、企業内技術士が社外で活動を行う際の利益相反を回避するような倫理的行動のあり方などについて多くの意見や考え方が出されました。

#### 2. 第 4 回研究 WG

##### (1) 第 40 回技術士全国大会の報告(佐崎委員長)

平成 25 年 10 月 3 日(木)に第 1 回技術者倫理ワークショップへ参加し、当委員会の取り組みに関する報告を行いました。

##### (2)ミニ講演会「企業内技術士の葛藤」のまとめ報告(長谷川委員)

長谷川委員より、前回講演内容およびフリーディスカッションでの各委員からの意見を整理した結果をまとめて報告がありました。

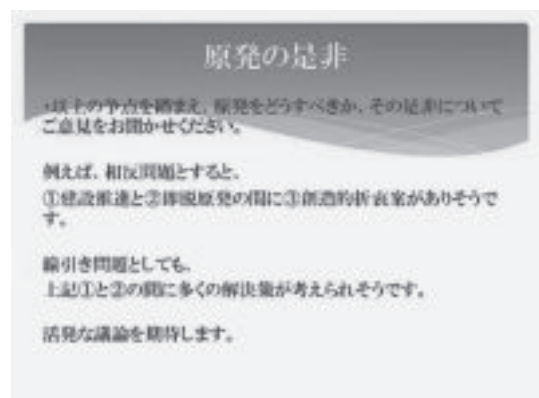


第 4 回研究 WG 発表する長谷川委員

##### (3)ミニ講演会(佐崎委員長、杉浦委員)

佐崎委員長および杉浦委員より「原発の是非について」と題した講演が行われました。講演後の各委員からの主な意見は下記のようなものでした。

- ・三点程度に議論を集約できると感じた。一つめは原発リスクを公衆に公表していたかということ、二つめは原発が壊れた後のルールが整理されていなかったのではないかという問題点、三つめは事故後の対応が正直に公開されなかったこと、である。それと、このような問題を次の世代へ継続させることも挙げられる。
- ・核廃棄物問題が当初の関心事であったが、震災による原発事故後はこの問題意識が薄くなった。



第 4 回研究 WG ミニ講演会発表スライド例

### 3. 第5回研究WG

#### (1)「第5回技術者倫理フォーラム」の日程変更

平成26年5月16日(金)に実施を予定していた第5回技術者倫理フォーラムの開催日を平成26年5月23日(金)に変更を行い、開催場所(ポールスター札幌)、開始時間(14:00～)については変更がないことについて報告がありました。

#### (2)「原発の是非について」(佐崎委員長)

前回WGでは原発の是非についての問題提起を行いました。今回のWGではWG開催前に各委員へアンケートを実施して意見をあげてもらい、幹事会で整理したものについて議論を行いました。

最初に佐崎委員長より、事前に実施したアンケート結果から主だった項目に集約した結果についての説明があり、下記のようにフリーディスカッションの論点整理がなされました。

- ①原子力の原理とそれに伴う利便性とリスクが国民に知らされていないことについて。
- ②原子力、核廃棄物施設の寿命が来た時の後始末が整備されていないことについて。
- ③原発事故後の対応が正確に公開されていないことについて。
- ④放射性廃棄物について
- ⑤世代間倫理について

フリーディスカッションでは活発な議論が行われ、以下のような意見が出されました。

- ・チェルノブイリ原発事故は他人事として捉えており、日本の原発技術ではこのような事故は有り得ないと感じていた。日本の科学技術に関する奢りがあった。
- ・従前は核廃棄物をどうするかが議論の対象だった。ただし、さまざまな利権が絡んでいるために、国民には知らされていないかった。
- ・今後はアクシデントマネジメントを普段から実践することによって、原発に対する危機意識を持続させる必要がある。
- ・廃炉技術や核廃棄物処分に関する技術開発に全力を尽くすべきである。
- ・この議論では全般的に原発に否定的な論調が強い。原発は地震ではなく津波によって被害を受け

た。技術開発を推進しながら他エネルギーに頼ることがよいと考える。

- ・結局、創造的折衷案で対応するしかない。

#### (3)ミニ講演会(伊藤委員)

平成26年度に当委員会の富澤委員が北海学園大学で技術者倫理の講義を行います。講義の参考になるようにと伊藤委員が過去に北海道大学や北海学園大学等で倫理教育を実施した際の授業内容や進め方、学生の反応等の実態を題材に「技術者倫理の導入教育について」と題して講演がありました。

伊藤委員からは、大学の先生方も技術者倫理の授業の進め方について悩んでいるようで、シラバスを見せてもらって過去の授業スタイルを紐解くと、オムニバス形式での授業がほとんどであり、一貫性が感じられないといった問題点があったこと等についての経験談がありました。また、学生時代に受けた授業などの影響があり、技術者倫理の講義で学生たちに以下のような問いかけや説明をしたそうです。

- ・学生たちには「技術者倫理上の問題があった場合、あなたたちはどうするのか？ 企業を守るか、技術者としての正義を守るか」を問いかけた。
- ・何かをやるには、仲間を作りなさい(一人でやるな)
- ・自分の問題としてアプローチしなさい。自分が「技術」という道具を持つことは、それは「武器」にもなり得ることを説明した。
- ・技術を使うことによって「失敗したら死ぬ」「責任は持て」といったことを説明した。



第5回研究WG 開催状況